

森林の大切さを学ぶ

もくもくエコランド開催

一〇月二六日(土)、二七日(日)に、高知市中央公園で、「もくもくエコランド二〇一九 森林環境学習フェア」(四国森林管理局後援)が開催されました。開会式では、石垣局長が挨拶を行いました(写真上)、丸太カットでイベントが始まりました。このイベントは、参加者が各出展ブースを巡り、森林の大切さを楽しみながら学ぶものです。

四国森林管理局からは、「森林のはたらき」に関するパネルや今年度の「四国山の日賞」を紹介したパネルなどを展示しました。

当ブースを訪れた参加者はパネルを見て学び、また、木を使ってハロウィン用の木製ドアノブ作りなどを楽しみながら、森林の大切さを感じ、木の温かさにふれていました(写真下)。イベントの準備から開催当日まで、ご協力いただいたボランティアの皆さま方、ありがとうございました。



「緑の募金で進めよう SDGs」 秋の「緑の募金活動」

10月14日(月)、秋の「緑の募金」活動の一環として、高知市で「街頭募金」が実施されました。当日、街頭募金出発式が行われ、四国森林管理局から江坂業務管理官が出席しました。その後、街頭に出て「緑の募金」活動を展開しました。(写真)



街頭では多くの方々に募金を呼びかけ協力いただきました。

全国緑化キャンペーン実施要領には、「緑の募金活動は、国民運動として一層の進展を期待されている」とあります。

このため、広く皆さま方に、森林整備の重要性や木材利用の意義などに理解と関心を深めて頂くことは大切です。今後とも、緑の募金活動にご協力をお願いします。

編集後記

山々の木々が少し秋の色に。
今年インフルエンザの流行が早いとか。
引き続き 日頃の対策と体調管理を。

知っ得 豆知識

「シカが鳥のすみかを左右する」って



森林は、鳥をはじめとする多くの生き物たちの「すみか」。鳥は、餌をとる場所、巣を作る場所、ねぐらをとる場所などを、森林内の様々な部位に依存して生活しており、その部位はまた、鳥の種類によって様々に違う。したがって、森林の構造が変われば、そこにすむ鳥の種類や数も変わる。

その森林が今、数の増えたニホンシカの採食によって大きな被害を受け、日本各地で深刻な問題に。シカによる採食の影響で鳥たちはどうでしょうか。シカ密度の高いところでは、ササ藪を好んですみつくウグイス、コマドリや、低木で餌をとることの多いコガラ、エナガなどが全くいないか数が少ない。その一方で、開けた場所を好むアカハラやビンズイ、枯死木での営巣または採食を行うオオアカゲラやアオゲラなどが見られ、アカゲラ、コゲラなどの密度も高くなる。

このように、鳥は「すみか」の形に応じてすみつく種類も違うため、シカは味方にも敵にも。

より多くの「住人」が住めるような「すみか」づくり。そんなリフォームを可能にする匠の数こそが、シカの適正密度だといってもいいのかも知れません。

(森林の100不思議 日本林業技術協会編より)